令和３年度 第１回 沖縄県 SDGs 専門部会　People（人間）部会
議事概要

日時：2021 年 12 月 23 日（木）９:30～11:00
場所：沖縄県庁 ほか（オンライン会議）
出席者：
（委員）
　大城千尋委員、大城りえ委員、島袋委員、野入委員、涌波委員
（沖縄県）
　島津 SDGs 推進室長、SDGs 推進室 平良主幹

（事務局）
それでは専門議会を始めさせていただきます。第１回の会議になりますので、委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思います。恐縮ですけども私の方からご紹介させていただいてその後お一言ずつご挨拶をいただければと思います。沖縄県社会福祉協議会総務企画部副部長の大城千尋委員からお願いいたします。

（大城千尋委員）
皆様おはようございます。聞こえていますでしょうか。沖縄県社会福祉協議会の大城と申します。沖縄県社協の方でもこの SDGs の取り組みが「誰も取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」というのは一つのテーマになっているかと思います。私達の方でも支え合い、安心して暮らせる地域社会を作っていこうという目標があり、意識して取り組みたいと思います。個人的にもできることというのを色々探して、みなさんと共有できて、住みよい社会、持続可能な社会を作っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

（事務局）
続いて琉球大学の名誉教授の島袋恒男委員から一言お願いします。

（島袋委員）
皆さんおはようございます。島袋と申します。どうぞひとつよろしくお願いいたします。しばらく前まで大学で研究と教育にあたっておりました。専攻は教育心理学、発達心理学、そういったところがメインでした。子育ての立場から今回の SDGs の中の教育とか子育て、そういった分野で何か意見を述べることができれば幸いに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）
沖縄県医師会理事涌波淳子委員からご挨拶をお願いしたいと思います。

（涌波委員）
はい、おはようございます。沖縄県医師会から担当理事になりました、涌波と申します。私は特定医療法人アガペ会北中城若松病院の理事長をしております。病院自体も精神科も掲げていて、精神科病院協会の理事も受けているので精神障害者の視点、そもそもウチの病院は高齢者のための病院ですので高齢者、医療、介護などに関しても様々な情報があります。去年までは２年間、女性相談所、DV の被害者の方のためのシェルターみたいなところで相談を受けていた時期もありました。いろんな生活者の視点も含めて何かお役に立てればなと思います。よろしくお願いします。

（事務局）
沖縄キリスト教短期大学　大城委員からご挨拶をいただければと思います。

（大城りえ委員）
おはようございます。沖縄キリスト教短期大学保育科の大城と申します。専門の分野は子育てということで参加をさせていただきます。保育課の方で教員をしておりますので、子育てという部分で子供、母親、父親という視点も取り入れながら、誰１人取り残さないということを意識しながら発言させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）
ありがとうございました。先島村委員は今日ご欠席という連絡がありまして、野入委員は途中参加になる予定です。本日は進行については企画調整課の SDGs 推進室の室長島津の方で務めさせていただきたいと思います。島津室長よろしくお願いします。

（進行）
皆様、おはようございます。沖縄県ではこの９月に沖縄県 SDGs 実施指針を作りまして、県民と共に沖縄 SDGs アクションプランを作ろうということで皆様からご意見をいただきたいということで、この専門部会となっております。是非忌憚のないご意見をお願いいたします。それでは議事を進めてまいります。事務局から資料の説明全体を通して説明をして、それから委員の皆様から意見をいただきたいと思っております。それでは事務局お願いします。

（事務局）
資料１から資料４まで送らせていただきました。本日、資料１を中心にご説明させていただ

きたいと思います。資料２の骨子のたたき台については資料１に溶け込んでいますのでこちらで大丈夫です。資料３は県民アンケートの結果ですが時間に限りがありますので、参考資料としてご覧いただければと思います。資料４は優先課題に関する SDGs のゴール、ターゲットを整理したものです。

それでは資料１の１ページ目の方をご覧いただくと、アクションプランの構成のイメージとプラットフォームという二つの絵が書いてあります。アクションプランのイメージについては県民の皆様と一緒に SDGs を推進する沖縄県 SDGs 実施指針を策定しており、その中で基本理念というのが位置づけております。沖縄県では２１世紀ビジョンというものを策定しており、2030 年の沖縄の目指すべき将来像を位置づけ、その実現に向けて、これまでも様々な施策が展開され、新たな振興計画についてもそれに沿った形で検討されております。アクションプランの将来像はこれをベースに捉えています。また、実施指針の中で 12 の優先課題というところがございます。優先課題をさらに具体的に整理していたのがこの青の枠のところで、実質のアクションプランというのはここの内容になってまいります。「沖縄らしい SDGs の実現」は、2030 年に沖縄がこういう姿になってほしいというそういう目標を示しているものですが、表現ぶりは他の会議でも意見がありましたので少し見直しをさせていただきます。それを実現するにあたってのゴール、ターゲット、ローカル指標というのは整理し、目標を実現するアクションと項目立てをしております。

他の部会でも多々ありましたが、プランニングだけでは課題解決が進まないというご意見が非常にありました。これについてはプラットフォームという枠組みを記載しています。この中に専門部会がありますが、本日の会議はこちらの枠組みになります。県庁の中に外部有識者会議を組み入れて進めているところですが、SDGs はいろいろな企業の方々、市町村、教育機関、県民も含めてみんなで進めていくことが大事で、連携する仕組みを来年度に構築する予定です。例えばこの中で具体的なテーマでグループを作って、プロジェクトを作っていく、アクションの具体的な実践をしていくということを想定しており、その取り組みがこういったアクションプランをベースにベクトルを揃えて、色々な取り組みを作っていく。こういった活動を通してまたアクションプランの見直し等にもつなげていくというと検討しております。「SDGs は推進したいが具体的に何をしたらいいか分からない。」というご意見が多々あって、地域課題等も含めて、取り組みの方向性をご議論いただきながら検討していきたい趣旨でございます。

今、どのような検討段階になっているかというのが２ページ目の方にございます。インプット情報として、このような形で情報を集めています。県民アンケートは９月から 12 月にかけて実施し、1,686 件の回答がございました。テキスト入力の多い労力のかかるアンケートでしたが、多くの方々にご協力いただきました。若い方々の回答が多くことや、離島からの回答が２割弱あるといったことが特徴となる結果となっております。

また、２１世紀ビジョン。パブリックコメントは実施指針を９月に策定する際のパブリックコメントで関連するものを活用しています。また、新たな振興計画の要素も取り入れ、は若

者の意見等も集約しながら骨子たたき台をまとめた経緯があります。

意見集約の結果を整理する段階なので、SDGs のゴール、ターゲットもしくは指標というのは一旦入れてはいません。この後、素案を作ってまいりますけども、その際に指標設定等は整理していこうと思います。先週 12 月 16 日に全体的な議論をする有識者会議、アドバイザリーボード会議を開催し、今週の月曜日から各専門部会の方を開催させていただいております。1月からは関係団体や市町村に意見照会をかけて、最終的には素案に持っていくというアプローチになります。素案についてはまた改めて委員の皆様のご意見をいただく場を作らせていただきます。現時点としては、赤いところまで来ているということを説明する資料となっています。

次のページですが、アクションプランの基本理念は他の専門部会で質問がありました。これは令和元年度に有識者会議を立ち上げ、２年かけて議論し、まとめた内容となっています。沖縄 21 世紀ビジョンの基本理念と重なるところがありますが、平和というところが沖縄の非常に重要なキーワードになりますので、平和を求めるというところ、時代を切り開くというのは SDGs において変革というのがテーマになっており、時代を切り拓いていく、変えていくという、そういうチャレンジをイメージしています。世界と交流し世界のウチナーンチュ、ハワイ・台湾との交流等も含め。た世界との交流。共に支え合いは誰１人取り残さないといった視点、ゆいまーるという沖縄のそういう伝統的な考え方の継承、持続可能は SDGs の持続可能な経済の発展という観点、美ら島沖縄は自然の保護や継承といった観点で基本理念として整理しております。

優先課題は①から⑫までございます。当部会は①から③までがメインの優先課題になりますけども、事前に色々ご説明した通り、他の優先課題とも非常に関連するところも多々ありますので、優先課題全体に対してご意見いただければと思っております。

優先課題①についてはジェンダーから始め、５つの目標を整理した上で、その実現に向けたアクションをたたき台として整理しています。他部会にて、新たな振興計画で書いてあるものと似ているというご意見をいただいておりますが、インプット情報として使っているので、そういった部分がございます。これからご意見をいただきながら充実させていきたいというところです。目標とアクションの次のページにアンケートのデータ、新たな振興計画、他の優先課題では県の個別計画も含めてキーワードを抽出し、目標やアクションを検討したという考え方が解るように示しております。このような形で①から②、健康福祉、子育て、貧困対、③の教育関係、人材育成と整理しています。

もう一つ、先週のアドバイザリーボードのお話とこれまでの専門部会での関連する意見をを簡単にご紹介させていただきます。まず優先課題でジェンダー平等のところが例に上がっていましたけども、厳しい踏み込んだ内容にすべきではないかというご意見もありました。他にも参画を優先するためにも分かりやすく柔らかい表現の方がいいという意見もあり、事務局の方で整理をしながら検討していきたいと思います。しっかりと書かないといけないテーマ、アクションと柔らかめに書くアクションがあるかと考えています。

教育関係については、文化・交流など、色々な分野にまたがるので、こちらの方にもっと充実させるべきという意見と、他の優先課題とアクションが重複しすぎると分かりづらくなるという意見もありました。パートナーシップとか文化、国際交流のところではもうちょっとこういうところとの関連を意識して書いた方がいいというご意見がありました。

資料４に SDGs のゴール、ターゲットを整理しております。これは、参考としてご覧いただければと思いますが、アドバイザリーボード会議からは、県民アンケートとか計画の議論、地域課題の解決というアプローチは重要であるが、SDGs は国際的な目標、国連が目指す目標をみんなで目指す側面もあるので、文言と指標の設定について、グローバルスタンダードの視点も持って検討を行う必要がある意見が強くありました。こちらについては事務局の方で素案をまとめる作業の中で整理し、改めてお示ししたいと思っていますが、そういった観点も含めて一緒に議論させていただきたいということから資料を用意させていただいております。

他にも、具体的な統合的な解決として、バラバラではなくてまとまった形で示せないかというご意見もありました。これはプロジェクトや具体的なアクションを作っていくアプローチになるかなと思っています。アクションプランの範囲ではなくとも、今後何をやっていくべきか、どのような取り組みをしていくべきかといったところもご意見もいただければと思っています。アクションプランに反映する話ではないけども、こういった組み合わせで色々な課題を総合的に解決するべきといった観点のご意見等がございましたら、今後の取り組みにつなげるように検討させていただきたいと思います。

最後に、本日の部会について非常に人権的な要素が強いかなと思っています。SDGs において、環境、CO_2削減、フードロスなどが注目されていますが、人権というテーマも非常に重要な課題になっております。アドバイザリーボード会議の議論、声が届きにくい方々からの声を、どうやって集約するかが重要だという意見がありました。どうやって集めていくかというのは模索しながら取り組んでいるところです。会議の中でも答えが出てはいませんが、工夫しながらやっていくことが大事という点や、例えば本日ご参加いただいている方々も直に接していらっしゃる方々が多いので、そういった方々から現場の声をお聞かせいただきながら取り組むことがスタートかと思っています。こういった声を収集していくアプローチというところでも、ご意見とかご提案がございましたら、非常にありがたいと思っています。

資料の説明は以上になります。ご議論の程よろしくお願いします。

（進行）

琉球大学、野入委員も入られました。野入先生、一言ご挨拶お願いいたします。

（野入委員）

定刻に入室ができませんで、大変申し訳ありませんでした。皆様どうぞよろしくお願いいた

します。

（進行）
ありがとうございました。それでは、事務局からの説明について、ご意見を頂戴したいと思います。ご質問でも構いませんので是非よろしくお願いします。第１回の会議ですので、最初は私の方から恐縮ですがご指名をさせていただきたいと思います。それでは島袋委員、ご意見よろしくお願いします。

（島袋委員）
一つだけ確認しておきたいですが、優先課題の所で沖縄らしい SDGs の実現というのがありまして、それに向けて実現に向けたアクションというふうに書いてありますが、これが具体的な施策になるとい理解でよろしいでしょうか。

（事務局）
具体的な施策とか事業についてはこのアクションの下にまた別途細く出てきてくるというイメージです。例えば企業の方とかが「SDGs はやりたいんだけど沖縄の中で何が課題で、どういうことをやっていった方がいいんですか？」という質問が結構ございます。パートナーシップ、みんなで連携してやっていきましょうというところで、ベクトルを揃えてこういう方向でやっていきましょうというものとして整理しています。沖縄らしい SDGs の実現については 2030 年、もしくは 2045 年、2050 年に向けてこういった社会像を作っていきましょう、こういうことを実現していきましょうというところを割と大きく捉え、モニタリングをしていく指標というのをこれから整理させていただきます。
　県庁の施策だとこのアクションの下でどういった事業を進めていくのかというのがぶら下がってきますし、例えば企業とか団体の方々、例えば登録制度とか認証制度とかもやっていきますが、企業の方々にこのアクションに基づいた取組を広げていただき、これを見える化し、さらに連携していく、コーディネートしていく仕組みも作っていこうと思います。

（島袋委員）
分かりました。理解の仕方としては沖縄らしい SDGs の実現という目標がありまして、それをさらに具体化したものが実現に向けたアクションということで、そのもとに、じゃあ今後具体的にどう動いていくかということは検討していくという理解でよろしいですね。ありがとうございました。

（進行）
島袋委員ありがとうございました。それでは続いて涌波委員からご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

（涌波委員）
優先課題の①のところでどういうふうに考えようと思った時に、性の多様性というのが表に出てはいますが、大事なのは障害とか国籍とか色々なものを含んで互いの違いを認め合う、大切にされる、活躍できるという三つのキーワードかなと思いました。

そうすると「認め合う」ということからいくとLGBTも含めたいろんな多様性をもそうですし、発達障害もすごく大きな問題、身体障害もそうだけど目に見えない発達障害の部分であったり、精神障害の部分であったり、あるいは高齢者の認知症の問題であったりもあります。外国人の方も結構いらっしゃる、そういう方がを含め１人１人の違いを認め合うというところにキーワードを持っていくと、教育がすごく大きいと思っています。認め合うというところからいくと、教育と、広報と、県民の意識改革。この三つのキーワードかなと思いました。

二つ目のキーワードとして、「大切にされる」は、認めるから大切にするということですけど、大切にされるということは、生活しやすいということなのか思います。資料１の４ページにあるような、ユニバーサルデザインとかバリアフリー化とかそういう目で見えるものも大事なんですけど、それ以外にもやっぱり女性同士の結婚を認めるような制度であったり、あるいは堂々とカミングアウトできて動けるような社会であったり、そういう発達障害もカミングアウトができるような、そういった見えない部分の環境整備というのも必要かなと思いました。

三つ目「活躍する」というところは、ここにもあるように障害者の雇用は沖縄県において結構良い状況というふうに資料でなっていたと思うんですけども、雇用している側のサポーターと雇用されている障害者側のサポーター、両方をサポートしていくサポーターの役割がちょっと大きいと思っています。もう一つは、農業をやる人が少なくなっているということも含めると、農業と福祉の関連というのは、子ども達も土に触れるということから、畑に出ると開放感もありますので、そういうものが出てもいいのかなと思います。発達障害とかいろんな問題を考えると、業務も分割してそれぞれができることをしてもらって、それを統合して組み合わせていく、そういう人をつなぐ役割の人が大きいのかなというふうには思いました。優先課題の①とか③とかバラバラで言っちゃうとマズいかなと思ったので、まずは優先課題①については私からは以上です。

（進行）
涌波委員、ありがとうございました。やっぱり目に見えるものも大事ですけども見えない部分をどうやって環境整備していくかが重要というのは非常に大きいかなと思っています。野入先生、多様性の中の多文化共生ということで、また教育という視点から是非ご意見いただければと思います。

（野入委員）
ありがとうございます。私もこういう包括的な取り組み、こういうゴールを掲げられているということをまず高く評価したいと思います。大きく沖縄が変わろうとしているということをこの参考資料を拝見して実感いたしました。ただそれをどのように文言に落とし込んでいくかというところで、多分大変ご苦労されていると思うんですが、例えば資料４、12の優先課題とSDGsのゴール、ターゲット一覧。優先課題としては性の多様性（LGBT等）とあるんですが、下のターゲットで見ていくと「全ての子供が男女の区別なく」というふうに、男女ということを前提に文言が組み立てられていること、それからジェンダー平等を達成の項目についても、あらゆる場所における全ての女性及び女児という形で、性別は男女があり、女性が今不利益を被っているという前提でターゲットが文言化されているというところが、せっかく優先課題に括弧して書いておられるLGBT等という性の多様性というところから見て、もう少し工夫できるのではないかなというふうに思いました。繰り返し、男女の区別なくというのがあって、これも非常に重要な問題であると。ここに関わる人の数が最も多いということは分かるんですが、先ほど涌波委員からもご指摘がありましたように、障害の有無、国籍など、あらゆる違いを認め合っていくというところに趣旨がありますので、男女だけを連続して用いない方がいいのかなということを考えました。持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進について、ターゲットで持続可能な開発のための非差別的な法規とあって、この非というのが非常にご苦労の跡がうかがえるのですが、踏み込んで反差別的な法規にできるのかどうかというものも是非ともご検討いただきたいと思います。非差別的というと、差別的でないという意味になりますね。現在の差別的な状況を改めていく法規ということであれば、もう一方踏み込んだ、また別の言葉もあるかもしれませんのでそういうことも考えていただければというふうに思います。色々申し上げましたけども、本当にその優先課題とても良くできていると思いました。実現した暁には次の世代が本当に人権的な課題が一つ一つ解決することを目の当たりにできるなと実感しております。ありがとうございました。

（進行）
野入委員、ありがとうございました。涌波委員、野入委員の意見を踏まえて事務局よりコメントをお願いしたいと思います。

（事務局）
ジェンダー平等もそうですし、障害のある方の話、性の多様性の話が色々とありますけども、SDGs のアプローチはみんなでやっていくというところが大事で、その原動力は見える化、知っていただくことと、あとは共感を広げることが重要で、共感を広げるにあたってのツールとしてこういったアクションプランの文言を慎重に検討していきたいと思っています。

野入委員からもあった通り、非差別ではなくて反差別というアプローチとか、こういった伝える言葉というのは大事と思っていますので、今後また色々とご意見等いただければと思っています。

涌波委員からもありました通り、障害のある方のアプローチというのは本当に先のパラリンピックでの話もあって非常に関心は高まっておりますが、見えるところが主となっていると思われます。発達障害の方とかは、実は、我々から見ても身近で、実際に目の前の現場に強弱も含めて、配慮の必要な方はいらっしゃいます。こういった観点は意識が高まっていて、社会としてどうやって関わっていくかというのは非常に重要ですので、見えないところも含めて、共感が広がるように、あとは体制構築に繋がっていくようにまた検討してみたいと思います。

教育が大事というところも非常におっしゃる通りで、外国人の共生のところは先日の平和部会において平和の構築において教育というところが重要で、相手のことを知って理解するところから広げていかないと、共感というのは生まれてこないし、それが広がっていくことで平和な、もしくは住みやすい社会というのはできるという意見もあったりしました。涌波委員、野入委員からあったお話というのは非常に重要な視点だと思いますので、意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。

（進行）
それでは、社会福祉協議会、まさに生活困窮の方々の支援をなさっている、大城委員から意見を頂戴できればと思います。

（大城千尋委員）
各委員の皆様からもお話があったように、「互いの違いを認め合い」とか「１人１人が大切にされて」というのはだいぶ重要なキーワードになってくると思っています。優先課題の①のところではジェンダーの平等、男女の機会の均等ということが出ていますけども、女性として参画ができる場が増えているというのはすごく嬉しい一方、例えばひとり親の女性の方とか、なかなか育児とのバランス、仕事とのバランスというのが難しいという方々もいらっしゃいます。そういった方々１人１人の背景もきちんと理解をしていかないといけないだろうと考えております。先ほど障害者のというところのお話もありましたけども、一番大事なのは建物とか構造面もそうなんですけど、できないことを認め合う、支え合える仕組みづくりというのがすごく大事かなと思っていて、心のバリアフリーという言い方もするかと思うんですけど、できないことは手を差し伸べていく、できることは見守る。そういった、障がいがある方への特性の理解と、自分達ができることが何かということを１人１人が考えていかないといけないだろうと思っています。

５番のディーセントワークの部分にもありますけども、働きがいのある人間らしい仕事の仕方というのもさっきのジェンダーの話とも関わってくると思いますし、さっきの３番

の障害の部分とも関わってくるかなというのがありますので、これがまたおそらくメンタルとか、そういった部分にも関わってきますし、コロナの状況で社協でもだいぶコロナの影響を受けて生活に苦しんでいらっしゃる世帯の方々というのもまだまだたくさんいらっしゃいます。そういった方々が早く経済的にも、また回復に向けて生活ができるような支援というのもすごく必要になってくるというのもあるので、多様な状況の中にある方々がいますけども、その人が自分らしく生きていけるという社会づくりをしていくというためにも、こういったアクションというのは凄く大事になってくるだろうなと思っています。

質問ですが、アクションプランですけれども、県民と一緒になって取り組んでいくという部分がすごく大事な部分だと思いますが、私個人としては県民というのはお子さんからお年寄りの方だったり（など）いろんな世代の方々がいらっしゃるので、例えばジェンダーバランス、ユニバーサルデザインとかという言葉自体も、お分かりいただける、理解ができる方と少しピンとこない方々がいたり、ディーセントワークとかもピンとこない方々がいたりするのかなと思います。表現の仕方も説明、誰にでも分かりやすいような言葉というのも必要ではないかというのはちょっとあったので、発言をさせていただきました。

（進行）
大城委員、貴重なご意見ありがとうございます。事務局よりコメントお願いします。

（事務局）
ありがとうございます。最後のディーセントワークの話、ディーセントワークに限らず分かりやすい言葉を使わないといけないということはおっしゃる通りで、先日のパートナーシップの部会でも外国の方に多言語が一番いいけど分かりやすい日本語を使う努力をすべきだというご意見もありました。大事な視点だと思うので、工夫をしながらやっていきたいと思います。分かりやすい言葉を使う意識を持っていきたいと思います。

ディーセントワークの定義、世界観をうまく伝えられるような用語集みたいになるのかもしれません。そういったことも工夫しながら考えたいと思います。是非、障害者もそうですし、新型コロナウイルスの影響というのは非常に大きくて、現場でのご意見等も多々お聞かせいただきつつ、教育現場でもまた別の観点で苦労があったりするかと思うので、後ほどの意見交換の中で色々お聞かせいただければありがたいなと思っています。

（進行）
続いて子育てというところでやはりお父さんお母さん、また子供たちへの支援をする生徒さんを育てている大城りえ先生の方からコメントいただければと思います。よろしくお願いします。

（大城りえ委員）

感じたことをお話しさせていただきたいと思います。安心して子育てができる環境が形成されているという優先課題②のところで、妊産婦を支える体制を充実するというところがありますが、ここにジェンダーのこととかも考え合わせると子育てをするのは母親だけではなくて父親でもあるので、そういう父親を支えるというところが欠けていたかなと思います。父親も産後うつになったりもしますので。そして、子育てを一緒に取り組んでいきましょうという時にお母さんだけじゃなくてお父さんの不安もちゃんと解消できるというか支えるシステムがありますよ、そういう中で一緒に今後家族として子育てしていきましょうといったメッセージがないといけないと感じたところでした。どうしてもお母さん中心ということになってしまうんですけども、やはり父親を取り上げるところで意識を改革していて、働き方というところにもつながっていくのかなというふうに感じました。

また、他の委員の方からも発達障害の話がたくさんありましたが、現場の方で障害のある子どもたちを見ていると、県民アンケートの方でも教師に障害者への教育方法や支援方法を学んで欲しいというのがあったように、まだ不十分なところがあるかなというふうには感じています。また、保育の現場、幼児教育の現場、そして小学校に就学していった際のサポーターさんがとても少ない。担任が１人が担任で見るというところではちょっとカバーできないぐらいの気になる子達だったりという数が増えてきているので、教育の現場でしっかり支えていく、支えられながらこの子たちが将来どんなふうに社会に出て生きるのかというモデルみたいなものがないと障害のある子だったり病気の子達というのが取り残されてはいかないかなと。できる人たちがどんどん進んでいくということではなくて、やはり誰１人取り残さないということを考えた時には、そういった弱者と呼ばれる人たちで、また特に子どもたちのサポートを手厚くしていくところも大切なんじゃないかなと思いました。そういうことを子どもたちが保育所、幼稚園とか、小学校の中で目にしていくことで、大人になった時にここにあるような多様性というところが本当に生活と直結して、生きたものになっていくんじゃないかなというところがあるので、教育というところを県民の中でも優先課題というふうに挙げられていますので、そういうところが示されていく、実現に向けていけるといいのかなというふうには考えました。

あと、保育と幼児教育がどうしても書かれるところが幼児教育の部分で、保育は福祉の部分で書かれるということがあるんですけど、保育の部分にもやはり教育というのが含まれているので、そういうところが分かりやすいような示し方というところがあると、もっと０歳からいろんな教育を受けていくことで、この貧困に対しての対策にもつながっていくと思うので、そういうメッセージの発し方というのがあるといいかなというふうに思って読みました。

（進行）

ありがとうございます。まさに保育、福祉の部類に分類されることが非常に多くて、教育というところをどうやってメッセージとして伝えていくか。優先課題の③にも関わってくる

もので、ここは事務局の方で整理をさせていただきたいと思います。ここからは皆さん優先課題の主に①について話しましたけど、②、③全て、他の優先課題についても、ご意見お願いします。では涌波委員お願いします。

（涌波委員）
私からは二つですね。一つ、さっきディーセントワークはですけども、この言葉はすごく気になっています。ここでは働きがいのある人間らしい仕事とありますけど、ディーセントと言うと「まともな」といった感じの言葉ですよね。コロナ禍でも色々は話題になっていますけども夜の街で働いている人の仕事は、ディーセントワークではないのかとか、実際にはもうちょっと違った仕事をしてほしいなとも思いますが、でもそういった方々が落ち込まないような、そういう工夫が必要かなと思っています。人によって感じ方が違うので、分かりやすい言葉という意味でも、もうちょっと練ってもいいかなと思いました。

もう一つは、教育というのもどこにも関わってくるところです。昔は金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」というのが教科書に載っていたと思うんですけど、そういういろんな多様性を認めるというところの人権教育と、２番のところに入ってくる健康教育なんですよね。飲酒や食材の選び方とか、運動の仕方とか、そういったものも小さい時からの積み重ねだと思います。ウチの子供たちは焼肉屋さんに行った時に野菜、焼き野菜とか必ず注文するのですが、本人たちはそれが当たり前だと思っていたけれども、友達と行った時に「なんで野菜なの？」と言われるらしいです。でも我が家庭ではそうだったから子ども達には自然なんですね。だから、小さい頃からの積み重ねが大人の健康教育に繋がっていくので、そこが大事だと考えています。

三つ目は生活力かなと思います。男の子であろうが何であろうが食事を作る、洗濯をする、働くというそういう生活力の教育という、そういうのをしっかりやる、国語、算数、理科、社会も大事なんですけども、こういうことをやるということ、しまくとぅば、沖縄の文化を習うのをしっかりやるというのも大事かなというふうに思いました。

それから、今後は高齢者が増えきますが、介護スタッフが本当にいないです。さっきのディーセントワークにも関わると思いますが、こういうところから介護へのチャレンジをする、介護じゃチャレンジしてみて向き不向きも分かるところもあるので、チャレンジするシステムはあってもいいのかなと思います。

高齢者でもできる介護というのもあるし、高齢者が子育てを見る、あるいは子育ては、社会で子どもを育てるという、そういうものもあっていいのかと思います。１人暮らしの高齢者が増えてきているので、１人暮らし高齢者の家を県が買い取るなり改築するなりして、若い人、子ども達、女性とか、そういった形にしていただいて、そこをサポートする相談員を今度はこの人たちの中から特性チェックもシートとか心理検査とかあるはずなので、そういう特性チェックをして、その人達を育てて、相談員にして、そこを市町村の教育を受けた心理士さんとかが相談に乗る、関知するなど、みんなが１本の柱で繋がっているような仕組

みは必要かなと思います。

（進行）
非常に貴重なご意見ありがとうございます。先日の部会でもサンパウロで高齢者の住宅を１棟、県人会で借り上げてみんなで生活を支える話がありました。今後、そういうものができたらなというふうに感じました。事務局の方からコメントをさせていただきます。

（事務局）
ディーセントワークの件については見直したいと思います。教育等も含めて幅広い議論をいただければと思いますのでよろしくお願いします。

（進行）
島袋委員お願いします。

（島袋委員）
優先課題③の教育の問題ですけども、時代に対応し生きる力を育む、多様な学びの環境が形成されているという。それをもとに五つのアクションが書かれていますが、「１人１人が自分らしく生き生きと」というのは、やはり最初に来た方が良いのではないかというふうに思いますがいかがでしょうか。

（進行）
おっしゃる通りだと思います。前の方に持ってきたいと思います。野入委員、いかがでしょうか。

（野入委員）
細かいところですがいくつくもの項目に繰り返し「2030 年までに年齢、性別、障害、人権、民族、出自、宗教あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく」という文言が繰り返し用いられているのですが、障害と民族の間にあるのは人権で間違いないでしょうか？人種ではなく。あんまり「人権、民族に関わりなく」というのは聞いたことがないので、もしかしたらこれは人種なのかなという感じがしました。あえて人種を避けて、とりあえず人権を置いておられるのかもしれませんが、それが１点と、やはりほとんどの優先課題について、ターゲットが男女の違いなくというのが繰り返されているのが、先ほど申し上げたことの繰り返しになって恐縮なんですが、違いというのは性別に全部還元できるものではないですし、性別は男女以外にも多様性があるということでこの文言の繰り返しについては少しご検討いただいた方が良いかと思いました。以上です。

（進行）
事務局の方から説明を加えていただきたいと思います。

（事務局）
ありがとうございます。非常に重要な視点だと思っています。こういった視点を意識しながら我々の方でアクションに移していくというこのグローバルスタンダードの視点を持って、ローカル的なアクションの議論をさせていただいているんですけども、そういったところを意識しながらやらないといけないと考えています。男女、人権などのメッセージは我々としても気をつけて整理をして考えていきたいと思っていますので、ご意見は非常にありがたいと思っています。
　ここはグローバルスタンダードを、つまり SDGs の国連のターゲットに直結するものも大事ですけれども、皆様にしっかりと本質的なところが伝わるような考え方として説明をしたと思っていて、今の観点もしっかりと踏まえながら今後検討していきたいと思います。

（進行）
国連が 2015 年に SDGs を定めた時にそこの性の多様性というキーワードがあまりなかったところが背景にあるのかなとも聞いています。アクションに落とし込む時にはそこの男女、性別というところの文言については工夫をしていきたいと思います。ご意見があればお願いします。大城千尋委員よろしくお願いいたします。

（大城千尋委員）
優先課題②のことについてなんですけども、もしかしたら４番のひとり親家庭などというところに含まれてくるかもしれないんですけど、５や６とも関連するので、安心して子育てができる環境とか生活困窮世帯の子ども親という部分に関しては、子どもにすごく焦点が当てられる部分というのが一般的というか、多い、これはもちろん大事というのもあるんですが、子どもの貧困の解消とか例えば児童虐待とかいうものが、どうしても保護者に起因したもの保護者支援というものもすごく大事な視点になっているんじゃないかなと思っています。その仕組みが少し弱いので、それが起きないために、例えば相談支援体制を日頃から作っていくような仕組みですね。
５番でも子育てができる環境というのが、「妊産婦を支える」という少し限定になっているので、本当は子どもを支えるという大きなところでは、大きな枠組みでの相談体制が必要になってくると思いますし、保育園レベルでは保育園の部分が子どもの子育ての支援もそうですけども相談支援も受けていますとか、学校関係とかって色々連携があると思いますが、そういった部分を強化していくというところが大事なんじゃないかなと思っています。
色々課題がある世帯というのは子育ての問題だけではなくて生活困窮の問題があったり介護の問題があったり色々なところに、もしかしたら起因するというところも多いかもしれ

ませんので、その相談体制の連携というのもすごく必要になってくるのかなと思うので、そういった部分ももう１個盛り込めたらいいのかなというのが私の方では感じたところです。ヤングケアラーとかもそうだと思います。やはり誰かに話ができて、そこから繋がって支援に行けるというところとかすごく大事なので、そういったネットワークができればいいなというのは感じました。

（進行）
非常に貴重なご意見ありがとうございます。まさに保育の現場、学校の現場もそうですけども、子どもたちに接する先生たちが気づいて、またそれは実はこの保護者の問題でもあるということが非常に大きいので、そういう相談体制、そしてみんなで取り組めるというのは非常に重要な視点だと思います。大城りえ委員、学校の現場で生徒たちと触れてみて実際 SDGs ですかそういった面は今いかがでしょうか。

（大城りえ委員）
そうですね。私、短大の所属なんですけども、四大の学生さんはすごく意識を持って取り組んでいて、今現在も性の多様性というところでアンケートをとったりして学内に展示をして学生にそういう意識を高めようという取り組みをしていたりするので、大学自体としてもそこに向かっていこうとしているのかな？というのは思います。ただ、ちょっと言葉が難しいのでこういった学生だと自分たちが学んでいることとどう繋がるのかというのがちょっと分かりにくいところもあるのかもしれません。分かりやすく具体的に自分が県民として何をすればいいのかとか、保育者になった時にどうすればいいのかということが分かりやすく示されると、また取り組んでいきやすいというふうに思いました。

（進行）
ありがとうございます。学習指導要領も改訂になって小学校、中学校、高校で SDGs を学ぶ機会も増えていますが、おきなわ SDGs パートナーとして、石垣島の保育園がエントリーしていただいたことがありました。保育園生にどうやって SDGs を伝えるかは興味がありましたが、SDGs かるたという形で、子どもたちに身近なところから教えているというお話を聞いて、非常に参考になりました。保育の現場は子どもに接する、非常に重要なところですので、そこから広げていただければと思いました。
多文化共生、国際交流といった視点から、野入委員、気づいた点等があれば是非お願いします。

（野入委員）
子どもたちの様子を見ていると、なかなか自分と同じような仲間に出会えないということがあります。すると、自分１人が違ってるんだなということで自分の方が良くないんだ、周

りに合わせられていないんだというふうな形で自己肯定感が低くなってしまうということがあります。それは学力の問題でも大きなダメージを与えることがあるんですね。当事者性を持つ者同士の出会いの場で一緒に過ごせる機会を保障することが、自助だけでなく共助を豊かにすることとして非常に大事なことではないかと考えています。それを当事者自身の口コミのネットワークであるとか SNS を駆使して、非常に上手にしている人もいますけども、必ずしもみんながみんなそういう自助的なネットワークには参加できていないということで、様々な当事者性を持つ人たちのコミュニティを行政側が支援したり、保証したりするということが何もかも１人１人を狙って行政が支援するよりも、足腰の強い持続可能な展開という意味では、当事者のコミュニティというのは非常に有意義ではないかなと思いました。

（進行）
行政としてどういった関わりができるのかというのもありますけど、当事者同士が話せる場、非常に重要だなというふうに思いました。SDGs、まさにいろんな方達がいろんな話をしてお互い繋がって、また新たなものが生まれるというところが非常に重要ですし、声が届かない人の声をどうやって拾っていくか、そういう当事者同士の集まりを支える仕組みというのも非常に重要かなと思いました。事務局からもコメントお願いします。

（事務局）
先ほどの涌波委員の話とも重なる部分が多いなと思いました。コミュニティはいろんな面で非常に重要なテーマで、SDGs のベースとなる考え方になるのかなと思っています。後ろの方にも共助、共生の社会づくりとかもありますし、別の観点だと防災ですね。災害の際の要支援者へのフォローを地域でどうするのか。自主防災組織、消防関係の話、防犯のボランティアの話もあるかと思います。コミュニティを作って、みんなで課題解決していくアプローチと重要だと思っていて、地域のそういった活動やコミュニティの中で、若い方から高齢者の方、いろんな人たちが繋がるというところが重要であり、課題だったりすると思います。そういうアプローチをどうしていくかというのはみんなで課題を認識して、共感を生んでいかないとなかなか自主的に動いてくれないところもありますし、そういう雰囲気作りというのは行政、市町村も含めて皆でやっていく必要があるかなと思ったところです。この辺は他の所と重なるところが多いので検討していきたいと思います。

（進行）
ありがとうございました。涌波委員よろしくお願いします。

（涌波委員）
声を拾いにくい人達、声の届きにくい人たちの声をどう拾うかというところですが、いろん

な補助金とかを申請に来る窓口があります。生活保護であったり、子育て関係であったり、障害年金であったり。そういったところに簡単なパンフレットで、将来的に沖縄が誰１人取り残さない、みんなが共に生きやすい社会を作っていくためにはどんなことが必要だと思いますかといった、といったことを書いて、投函できるようなものをやると、書いてくれる人も、「こんなこと困っている」とか「こんなことをして欲しい」とかを発信することに繋がらないでしょうか。

（進行）
窓口に来る時にその声を拾うというのは非常に有効かなと思いました。外国人の方も増えてきていて、コロナ禍で入ってくる方は少ないかもしれませんけども、どうやって声を拾うかというのはここも非常に課題だというふうに思いました。

（涌波委員）
外国人の方は結構コミュニティがあるみたいなんですよね。そういった人たちが集まるお店とかがもしあれば、そういう食材のお店とか、そういったところにポストを置くともしかすると拾えるかもしれないです。

（進行）
ご提案ありがとうございます。残り時間もわずかになりました。最後に全体を通してこの点だけは今付け加えたいという方がいらっしゃいましたらお願いします。後ほど事務局の方から後で気づいた点を書いていただくような様式も送らせていただきたいと思います。よろしくお願いします。
それではないようですので、議事の方を終了しまして、事務局の方に進行を返したいと思います。皆さん活発にご意見どうもありがとうございました。

（事務局）
時間も限られた中で資料もたくさん送らせていただき、消化不良のところもあるかと思うので、様式を送らせていただいて、お気づきの点等をお寄せいただければと思います。本日の会議につきましては、議事概要を取りまとめさせていただいて、後日各員の方に遅らせていただきます。修正等反映した上で県のホームページにて公開をさせていただく形になりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。次の会議の資料を取りまとめましたらより早め早めに送らせていただきたいと思っています。
今日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。
これをもちまして会議第１回の会議を終了させていただきます。